

講演会 社寺建築物に求められる耐震対策と維持管理技術

わが国では、阪神・淡路大震災以来、多大な被害をもたらす地震が多発し、今後も大地震の発生が予想されています。倒壊など被災した建物には、一般住宅だけでなく、寺院、神社など伝統構法による木造建築物も多数含まれています。これらの社寺建築物は、築後年数が長く、耐震性能を満たしていない建物が多いこと、また往々にして腐朽や虫害などによる劣化が被害を甚大化させる要因となっていることが指摘されます。

京都などの歴史的都市とその周辺には多くの寺院や神社があり、これらの社寺建築物は歴史的、文化財的な価値も高く、保存・再生が望まれています。しかし、ひとたび大地震が発生すると、多くの人命だけでなく、文化的・社会的資産でもある寺社建築物の多くに大きな被害をもたらす危険性があり、また、それらの再建や修復には多大な費用がかかります。

このような状況を受けて、近年、住宅やビル・マンションだけでなく寺院・神社など伝統構法による木造建築物についても、耐震診断や耐震改修に関する技術が研究されています。また木材は腐朽や虫害といった生物劣化を免れることができないため、このような劣化を考慮した診断や維持管理技術も研究されつつあります。

本講演会では、伝統構法による木造建物の耐震診断や耐震改修の技術や、木材の劣化とその対策に関する知見を、社寺建築物の所有者・管理者および関係各位に紹介するものです。

開催日：平成 19 年 10 月 1 日（月）午後 1 時 30 分から 4 時 30 分まで

会 場：京大会館

〒606-8301 京都市左京区吉田河原町 15-9 TEL:075-751-8311

主 催：財団法人建築研究協会

協 賛：京都大学防災研究所、京都大学生存圏研究所

後 援：京都市消防局

定 員：100名（先着順）

参加費：無 料

プログラム

13:30 開会の挨拶 京都大学名誉教授・金多 潔

13:40 京都市第3次地震被害想定と対策について

京都市消防局防災危機管理室 担当課長 吉岡正和

14:25 伝統木造建築物の耐震性能と耐震補強 京都大学防災研究所教授・鈴木祥之
(休憩)

15:30 社寺建築物に見られる劣化と維持管理 京都大学大学院農学研究科准教授・藤井義久

16:15 質疑応答

16:25 閉会の挨拶 京都大学名誉教授 西本孝一

司会：京都大学生存圏研究所教授・今村祐嗣

参加希望者は（財）建築研究協会にご氏名・ご所属・連絡先等を記入した申込書をファックスかメールで下記までご送付下さい。申し込み締め切りは9月14日（金）です。

（財）建築研究協会 〒606-8203 京都府京都市左京区田中関田町 43

FAX 075-751-7041、E-Mail : kenkyojm@star.ocn.ne.jp